

2025年11月5日
石川県保険医協会

能登半島地震

国保・後期高齢者医療の窓口負担免除終了に関する受診実態調査 中間報告

能登半島地震の被災者の医療費の窓口負担免除について、石川県内の国民健康保険（以下、国保）と後期高齢者医療は2025年6月末で終了となりました。これを受け、県内の医師・歯科医師で構成する石川県保険医協会では、2025年9月～10月に国保・後期高齢者医療加入者を対象に、能登半島地震の被災者に対する医療の窓口負担免除に関する受診実態調査を実施しました。今回はこの調査の2025年10月16日付中間報告です。

なお、当会ではこれに先立ち2025年6月～8月にも被災者に向けた患者・利用者アンケートを実施し、最終報告を協会HPにて公開しています。（<https://ishikawahokeni.jp/menjo250827/>）



アンケート結果のポイント

1	調査開始から約1か月半で 2千件 を超える回答があった。
2	免除終了後、通院や診療内容に影響があったとの回答が 69.3% 。
3	影響の内容は「受診回数を減らす」(781件)が最多。「通院をやめた」(150件)という回答も少なくない。 懸念されていた 受診抑制が現実化 していた。
4	影響の理由は「一部負担金がかかるから」が全体の 90.6% と、 一部負担金によって 必要な医療を受けられなくなっている 。
5	自由意見では、 体調不良の心配 や、 体調悪化の訴え があった他、 物価高などによる生活の困難さ、今後の生活に対する不安の声などが寄せられた。

能登半島地震

国保・後期高齢者医療の窓口負担免除終了に関する受診実態調査 <中間報告>

2025年11月5日
石川県保険医協会

石川県保険医協会は、国保・後期高齢者医療加入者を対象に、「能登半島地震の被災者に対する医療の窓口負担免除に関する受診実態調査」を実施した。

【調査期間】2025年9月1日～10月31日

【中間報告】2025年10月16日

【対象者】国保・後期高齢者医療の加入者

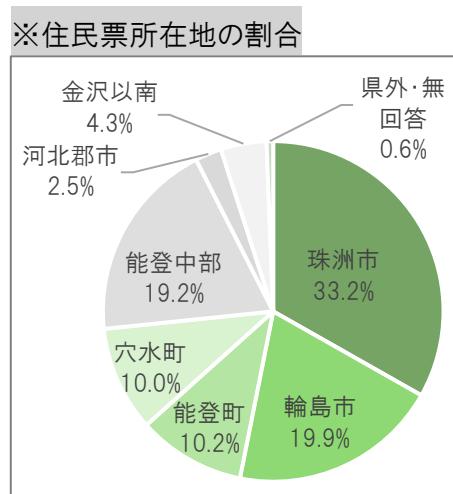
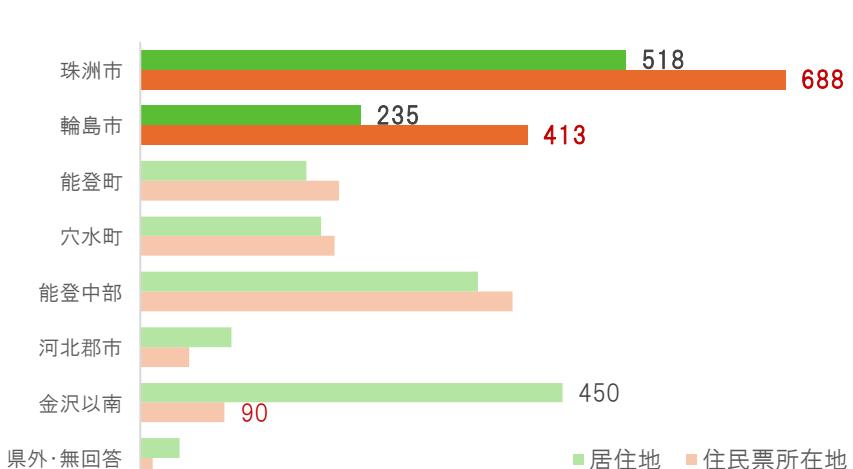
【回答方法】ハガキ又はオンラインより回答

【回答数】2,072件（ハガキ2,016件、オンライン56件）

【ハガキ配布枚数】23,170枚

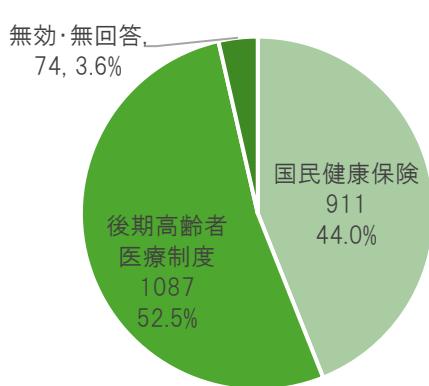
※【ハガキ配布方法】会員医療機関の窓口で配布したほか、仮設住宅へ配布。

1 居住する市町および住民票所在地

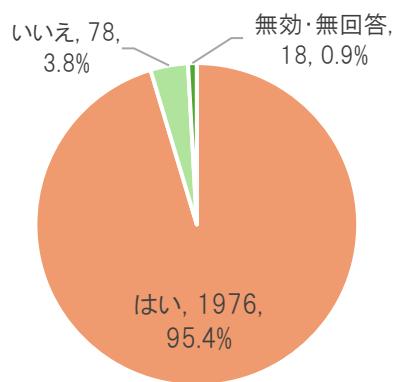


	居住地 住民票			居住地 住民票			居住地 住民票			居住地 住民票					
奥能登四市町	珠洲市	518	688	能登中部	七尾市	122	150	河北都市	かほく市	23	11	金沢以南	金沢市	331	63
	輪島市	235	413		志賀町	182	198		津幡町	22	4		野々市市	41	7
	能登町	177	212		中能登町	21	21		内灘町	52	37		白山市	37	10
	穴水町	193	207		羽咋市	30	25						川北町	0	0
					宝達志水町	5	3						能美市	11	1
													小松市	23	10
													加賀市	6	2

2 加入している医療保険



3 免除の対象か

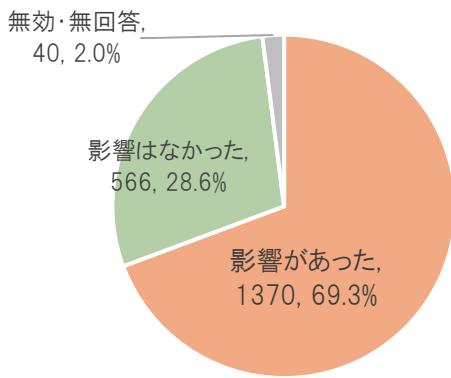


居住地に関して、奥能登四市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）との回答が「現在お住まいの市町（居住する市町）」では 54.1%だったのに対し、「住民票所在地」では 73.3%になった。現在も多くの方が住民票所在地を離れた生活を継続されていることがうかがえる。

また、特に住民票が輪島市にあると回答された方のうち、約半数近くは現在の居住地が輪島市以外との結果となり、多くの方が輪島に住民票を残したまま、現在は別の市町で生活されている実態が示された。今後これらの方々が輪島市から住民票を移す決断をされた場合、能登からの人口流出問題はさらに深刻化・顕在化する可能性があると考えられる。

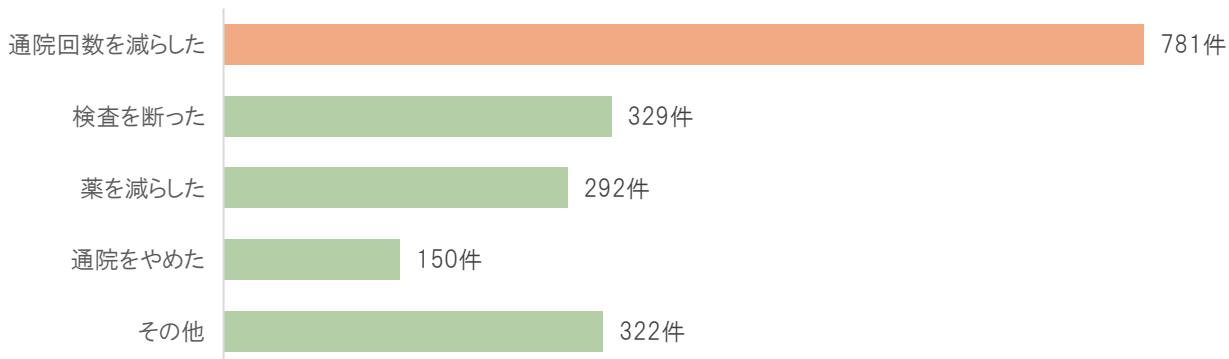
加入している医療保険については、国民健康保険が 44.0%、後期高齢者医療制度が 52.5%と、回答割合に大きな差はなかった。また回答の 9 割以上が免除対象者からであった。

4 医療の免除終了後、通院や診療内容に影響あったか

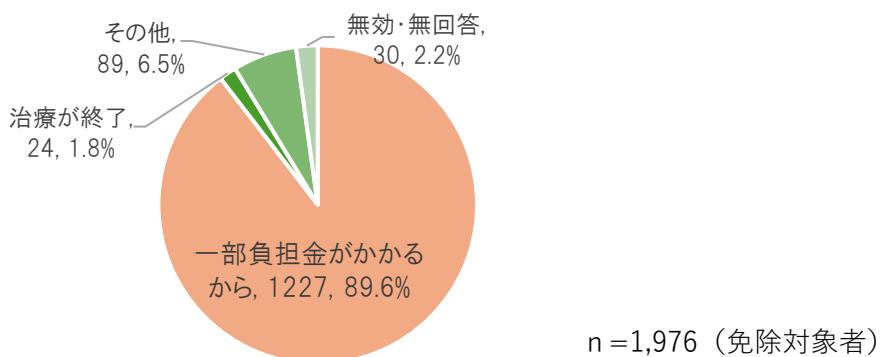


n = 1,976 (免除対象者)

5 免除終了後、通院にどのような影響があったか（複数回答可）



6 その影響の理由は

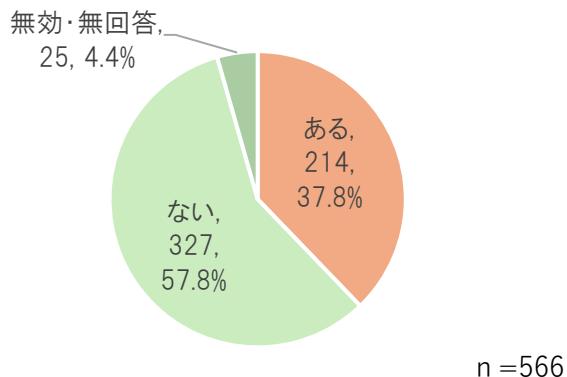


免除終了後、通院や診療内容に「影響があった」との回答は69.3%だった。本年6月～9月（免除終了前）に当会が実施した調査では「医療の免除が終了した場合、通院に影響があるか」の設問に対し 85.4%が「影響がある」と回答していた。割合は若干少なくなったものの、実際に **7割近くの人の通院や診療内容に影響**が出てきている。

影響の内容を問う設問では、「**通院回数を減らした**」(781件) **が最多**となった。それ以降は「検査を断った」(329件)、「薬を減らした」(292件)と続くが、「**通院をやめた**」(150件)との回答もあり、懸念されていた受診抑制が現実化していた。

影響が出た理由として 9割近くが「一部負担金がかかるから」を選択しており、一部負担金が障壁となって、患者に必要な医療が届かなくなっていることが明らかとなった。

7 医療費の窓口負担を支払うため、生活に影響はあったか



問4で免除終了後の通院や診療内容に「影響はない」と答えた人（566人）に、「窓口負担（一部負担金）を支払うために、生活に影響があったか」と質問したところ37.8%が「ある」と回答した。具体的には「通院はやめられないで、食費を削った」「住宅再建途中でもあるので、生活費を切りつめた」といった切実な意見があった。

またこの設問では問4で「影響がある」と回答した人については集計外となっているものの、自由筆記には「食料品の購入を減らした」や「エアコン、電気をあまりつけない」など、同様に生活費を切りつめているという意見が寄せられた。

自由意見

自由意見欄では、負担が大きいため受診できず医療機関から足が遠のいている現状の他、今後の体調不良を心配する声や、実際に**体調が悪化しているという具体的な記載**があった。また物価高などによる生活の困難さや、これから先の生活に対する不安の訴えも多くみられた。

まとめ

この中間結果からは、医療費一部負担金免除の終了が被災者の受診行動に大きく影響し、危惧されていた受診抑制が既に現実化しているという深刻な現状が明らかになった。被災者は震災前の日常を取り戻したとは言い難く、未だ困難な状況にある。急激な環境変化や過酷な生活が長引く中で、精神的負担は平時より増大しており健康問題はますます切実になるだろう。また診療中断による慢性疾患の悪化、歯科受診の遅れによる口腔機能の低下などは、まさにこれから生じる可能性が高い。今後、受診抑制が病気の発見遅れや重症化といった重大な事態を引き起こすことが懸念される。

- ① **自由意見欄** 仮設住宅で生活しています。医療費免除が終了し、受診の回数を減らしては体制は良化し、入院移動をやめました。経済的負担を減らしていくべく受診控えましたが、予算超過になってしまいました。福井と富山が免除されているなら、なぜ石川も石川県保険医協会 電話 (076) 222-5373 免除に応じないのかが不満です。
- ② **自由意見欄** 長い間の免除大変ありがたかったです。期間終了してしまいほしくなく定期的に受診しそうけれど、今はよいのでこれからも負担が大きいです少しぐらいの体調不良はがまんしてます。石川県保険医協会 電話 (076) 222-5373
- ③ **自由意見欄** 地震の際に負傷は足がひざに治らなく、地元を境目に看のまきなどかかり、お金が多く、いざなに病院にかかるには危ないといいます。
- ④ **自由意見欄** 具合が悪い時でも我慢してしまう。病状の悪化が心配である。一部負担は免除してほしい。年金受給の身には年金受給の身には
- ⑤ **自由意見欄** 毎日のんびり子育てはいかないけど足の痛めはれたり、医療費やらかさると悪い自己流でどうしてひと通り病院へ行くと早く治せこないとか二回目、お釣りがきいてます
- ⑥ **自由意見欄** 年金生活で、怪我も、エビで生活しながら地震後は伊藤ケ更くら事多しく、病院に行きましたが、お金がかかるため手帳を買いました。本また困ります。
- ⑦ **自由意見欄** 医療費の心配をしてとても病院に行くといふ毎心配。本当に有難かったです。今は生活者のことを考えると二の足をふるんでいます。
- ⑧ **自由意見欄** 物価高で生活費が増え、年金だけの暮らしは大変です。出費を抑えるために、7月から通院をやめました。休暇が悪くなっていくのを感じますが、仕方ありません。
- ⑨ **自由意見欄** 医療費の一部負担は、被災地から立ちはだかろうとしている生活をより苦しくしています。
- ⑩ **懇スレジ4. 治療を変える歌といかず向うむはひにVしたか。限車、お風呂などひいかえるしかない**
- ⑪ **自由意見欄** 今たにみなし仮設のあせ話をみております。みらこら寝も見たりてあります。つまりせんし地元の賃貸公営住宅もまた進んでおりません。つづく生活してありますか。元気へ前のほうに出ません。よろしいです。
- ⑫ **自由意見欄** 被災後、なかなか再建が進まない。状況がまだ約1年半が経ち、心身の不調が出てきています。しかし生活の困窮が多くの病院を受診できずにおり、疲労やストレスが重なっています。
- ⑬ **所得制限や仮設住宅居住者限定など** 制限を設けて良いで復活して欲しい。働きたいときに働きたい人や高齢者を見捨てないで欲しい。
- ⑭ **自由意見欄** 今、病院の通院回数を減らし回数を減らしたことにより、相談が悪化してしまつたり状態です。物価高で生活も苦しく医療費もこれ以上……もう耐けられないです。
- ⑮ **医療費がこれまでの通院回数を減らして(部屋に)残るよりかこちにあります。**
- ⑯ **自由意見欄** (震災医療費はまだ払ってない!) 高齢者にとって、家も空き家で土地も渡されても医療費終了で今後どう生活していくかいいのか、聞けてほしいです。
- ⑰ **自由意見欄** 地震の影響から治療が必要になりましたが一部負担金、交通費が高額になり我慢している現状です。負担軽減されると安心して治療通院できるため、検討をお願いします。
- ⑱ **自由意見欄** 免除手続きをお願いします。生活費を切り詰めてます。住宅面倒でお金が足りずに困ります。そのため皮肉を隣町の病院を利用しました。隣町病院が高くて困るとして、通っています。
- ⑲ **自由意見欄** ク月から3回療育があり医療費用が大きくなり困ります。高齢な親は家を失っています。介助料もてまでは半年頃で未だ次の補助料は決済待ちです(年金受給)「次に」と言つては被災老人たちを助けて下さい!
- ⑳ **自由意見欄** 今まで住んでいた、お医者さんの所に面しています。先生の顔を見るととても安心するのであることを離れていても、病気ももうすぐない。心の安にも嬉しいので、2ヶ月~3ヶ月に1回通院で少しでも体力も回復し、とても不自由です。これで不自由です。
- ㉑ **経済的負担があり、受診するかしないかに悩んでいます。精神的にも不安になります。**